



地域医療支援の最前線「地域医療連携室」の看護

足柄上病院は「地域医療支援病院」です。患者へのシームレスなケアを提供するため、地域医療連携室看護師として大切にしていることを聞きました。（地域医療支援病院の詳細は当院ホームページをご覧ください。）



病状や治療経過の予測をしながら、患者・家族の思いに寄り添う

地域医療連携室は退院調整の役割を担っています。急性期病院のため緊急入院が多く、入退院を繰り返す方もいます。元の生活の場には退院できないこともあります。

入院時から退院に向けた支援を開始します。地域医療連携室看護師は、病状や治療経過を予測し、今後起こり得る患者の状態を見据えながら患者・家族の思いに寄り添うことを大切にしています。高齢患者が多いため、住環境を含めたこれまでのサポート状況を確認し、退院に向けて必要な支援を考えます。

病棟看護師や医師、リハビリスタッフ等多職種との連携

コロナ禍の現在、家族は患者と直接会うことが難しい状況です。24時間患者の側にいる病棟看護師には、家族やケアマネジャーに入院生活の様子を伝えてもらっています。十分な感染防止の上でリハビリの様子を家族に見てもらい、ケアマネジャーや福祉用具担当者等も同席し、退院へ向けて自宅の環境調整について共に考えることもあります。



院内多職種カンファレンスの様子
(感染対策をしながら実施中)

地域医療連携室看護師は、退院調整に関わる多職種連携の中心的役割を担っています。情報共有し、共に考え、同じ方向性で支援できるよう、病棟看護師と協力して院内や地域の多職種へ働きかけています。

新人看護師 研修レポート

～対象を生活者として捉えるために～

足柄上病院の看護は、ヘンダーソンの看護に照らして、対象を生活者として全人的にとらえ、人間の基本的なニーズを充足し自立に向けて支援します。看護過程を展開できる力を段階的に養うことを目的とし、当院では3つのステップで看護過程の研修を実施しています。

10月、新人看護師は1つ目のステップである「看護過程Ⅰ」の研修を受講しました。研修では、模擬事例をヘンダーソン看護論に基づいてアセスメントし、患者の全体像から考えられる看護問題についてグループで検討し、多くの気づき・学びがありました。新人看護師の気づき・学びからいくつか紹介します。

- ・なぜ生活者として捉えることが大切なのか、学べた
- ・「患者」ではなく、「一人の人間」として、看護することの大切さを改めて理解した
- ・どのような人なのかを知るためのコミュニケーション、情報収集をしていこうと思った
- ・今後も病棟の先輩に相談し、一緒に考えながら良い看護ができるようにしたい

チャレンジ!

看護師国家試験 ～第106回(2017年)問題より～

問題: 医療法で「地域の医療従事者の資質の向上を図るための研修を行わせる能力を有すること」と定められているのはどれか。

- ①助産所
- ②診療所
- ③特定機能病院
- ④地域医療支援病院

※解答は最下部



インターンシップ
12月に追加開催決定
お申込みはこちらから→

